

#### 第4回 ポートアイランドスポーツセンター再整備検討有識者会議（議事録）

日時：令和4年2月7日（月曜）13時25分～14時50分

場所：神戸商工貿易センタービル22階（職員研修所・第二研修室）

（委員）

- ・議論に加えていただきたい内容として、神戸市は被災地としての経験を忘れてはいけないということがある。今回は敷地が限られているが、プールの水を災害時の水利用に活かせるのではないか。東南海・南海地震への配慮について一言触れて、ポートアイランドスポーツセンターの中で活用できることを方針として入れておいた方が良いのではないか。

（事務局）

- ・10ページの全体計画の中に津波・地震に対して利用者の安全を守るという点も含めて、記載をしている。どのような記載とするかは事務局で検討したい。

（委員）

- ・7ページの基本方針で、有識者会議の意見を反映していただいて、競技力の向上、市民の健康増進、ポートアイランドの活性化を挙げていただいているが、この図をみる限りは、それぞれが独り立ちしているようなイメージを受ける。連携というところをもう少し強調していただきたい。
- ・全体的にスポーツを「する」ことが強調されているが、第3期のスポーツ基本計画においても「する、みる、ささえる」という3本柱が絶対的に必要になる。例えば、「みる」というところで、障害のある方でも観戦できるように、アクセシビリティとして、大きめのエレベータを設置するなど、そのようなところがもう少し具体的になっても良いのではないかと思う。

（事務局）

- ・競技力の向上、市民の健康増進が両立しうる施設を目指してまいりたいと考えている。ポートアイランドの活性化は、地域を活性化するという面もあるが、ポートアイランドの資源を活かして、より高質な施設にしていきたいという面もある。神戸市としても「する」、「みる」、「ささえる」の3本柱は大変重要と考えている。「する」というところは、利用しやすい施設というように具体化しているが、観客席の部分で大会誘致など「みる」の視点もある。「ささえる」という点を含めて、どのような表現にすべきか検討したい。

(会長)

- ・スポーツ基本法において、国、独立行政法人、地方公共団体、学校、スポーツ団体及び民間事業者その他関係者は、基本理念の実現を図るため、相互に連携を図りながら協働するよう努めなければならないと明記されている。連携・協働を進めることで好循環が生まれてくると思うので、こういったところはぜひ考えていただきたい。最終的に、モデルの図はインパクトが残るので、ぜひ工夫していただきたい。

(委員)

- ・スケート協会として要望してきたスケートリンクフェンスのハイブリッド方式が具体的にどうなるのかというところが気になる。また、観客席も3,000席以上とあるが、イベント等で仮設席を設ける場合最大でどれぐらいになるのか。スピードスケートの大会は、ハイブリッド方式が必須になっており、この設備がないと全日本級の大会を開催することが難しくなっている。今年の3月にも全日本ノービスの開催を予定しており、年に1、2回はそのような大会を開催している。毎年、神戸で開催したいと思っているが、段々と安全なリンクを求められているのでその点もお願いしたい。

(事務局)

- ・まだ基本計画の段階で、令和4年度から事業者公募に向けた資料（要求水準書）の中でより具体的なものをまとめていく。スケートでは、3種目を両立するにはどうするのが良いか、技術も日進月歩している。施設が完成する時期も見据えながら、どのような技術があるのか、事業者にも聞きながら、上手く両立できる方法を検討してまいりたい。
- ・観客席は現在の2,500席から2割ほど増やしている。敷地は大体25%ほど増えているが、形状が東西に長くなっていることから、3つのプールを横に並べたレイアウトを考えている。観客席は現在もそうであるが、南北方向に設けていくが、一定の限界があり、固定席としては3,000席を想定している。一方で、行われる大会によって、仮設席を増やして「みる」スポーツにも対応していきたい。プールの場合は難しいが、スケート競技であれば、メインリンクが会場になるので、サブリンクの上に観客席を設けられる。他の会場でもそのようにしている場合があるので、大会に併せて仮設席を設けていきたいと考えている。

今回、これまでの利用実績を踏まえて、飛込台を設置しないことにしており、仮設席も設けやすくなるので、競技団体と相談しながら、大会の規模に応じて検討している。シミュレーションをしたところ、何とか5,000席は設置できるのではないかと考えているが、これより増やせるのかどうか、引き続き模索をしていきたい。

(委員)

- ・125億円という事業費は非常に大きい。PFI方式でコストが下がる可能性があるのであれば、ポートアイランドの活性化を考えると、一体的な構想が非常に重要と思う。建物の周辺、例えば駅からエントランスに至るまでの魅力ある道づくり、大きな大会を開催するときにはプール以外の休憩所等も必要になってくるので、そういうこともできるような連携・ゆとりも合わせてPFIで検討していただきたい。
- ・施設が完成するのが6年後ということで、この間の技術の発展、ソフト部分の進展も大きいと思う。東京オリンピックのときに色々な技術ができて、会場の中で魅せる技術もできてきた。ソフトについても、5・6年後のイメージを持って、想像力豊かに考えていただきたい。

(事務局)

- ・駅からの動線については、大会によっては道中で展示等をしながら大会を盛り上げることもしているので、今後に向けて考えていきたい。
- ・施設の仕様上、水泳とスケートが中心となるが、競泳・水球・アーティスティックスイミング、スケートはフィギュア・スピード・アイスホッケーと複数の種目がある。スケートの場合は夜遅くまでご利用いただいている。資料11ページの導入機能において、民間提案としてトレーニング室や、スタジオを例示しているが、多様な使い方をしていただけるよう、民間事業者のヒアリング等を踏まえながら、付け加えられる機能がどれほどあるのか並行して考えていきたい。この金額をより活かすように、もちろん削減も含めて引き続き検討したい。

(委員)

- ・更衣室の数はどうなるのか。現状は、一般・ベビー・幼児・子供・指導者全てが同じになっている。クラスの入れ替えのときは、多いときで40~50人ぐらいが一度に使用する密な状態になる。民間のスポーツ施設では、大人・子供・指導者で分かれている。

(事務局)

- ・色々なシミュレーションをしているが、柔軟に設計できるように、これをもとに提案をいただく土台として基本計画を定める。諸室の仕様・規模は利用される方、種目によって変わってくる。新しい施設では、50mプールも可動床で一般の方もできるようになるということも踏まえて更衣室の仕様や数はこれから考えていくというところである。そのあたりも、民間事業者にヒアリングをしながら数やレイアウトをどのようにしていくのか、スケートとの兼用でもあるという視点も含めて掘り下げていきたい。

(委員)

- ・障害のある方が利用していくにあたって、施設が完成する頃になると、益々多くの方が外に出て、スポーツをする方も増えるような環境になっているのではないかと思うので、障害のある方の声をぜひ聞いてほしい。使い勝手の良い、素晴らしい施設ができることを期待するとともに、要望をしたい。

(委員)

- ・アイスホッケーのレギュレーションが変わる可能性がある。リンクが少し狭くなり、コーナーのアールも大きくなっている。NHLのリンクは北京のリンクよりも、もう少し狭く56m×26mで、国際規格は60m×30mである。6年後にどのような国際規格になっているか分からないが、そのあたりも頭に入れておいてほしい。また、控え室など、競技者として必要なスペースなどについて、今後も意見を申し上げる機会があるのか。

(事務局)

- ・有識者会議は今回で終わりであるが、競技に関わる部分については、最新の状況などについて、来年度以降も引き続き、個別にご意見を伺ってまいりたい。

(委員)

- ・大きな大会を開催する場合、フィギュアスケートでは、オリンピックのようにテレビ中継が大切になる。中継車が大会前の練習から入ってくる。そういったスペースが必要になるとともに、選手を乗せるバスが朝早くから夜遅くまで停まっている。安全面も必要で、バスも1台だけではなく数台分のスペースが必要。施設の中も大切であるが、周辺部分の確保も重要ではないかと考える。

(委員)

- ・ポートアイランドの活性化に力を入れていただけるということで、大変ありがたく思う。我々も地域の活性化に力を入れているところなので、よろしく願いしたい。メインプールは可動式により、利用範囲が広がるし、大きな大会を開くことで、多くの方が水泳・スケートに興味を持ち、実際にされる方も増えると思う。一般市民としては、予約の方法や料金等も含めて、気楽に利用できることもお願いしたい。

(事務局)

- ・スマートフォンを1人1台持つ時代になり、そういったところは最低限活用できるよう、どこからでも予約していただけるようにしたい。料金面についても、これから検討したい。

(委員)

- ・私が神戸にやってきて初めての大きな仕事が、フェスピック神戸大会の開会式に中学生の子供たちを連れていくことだった。子供たちは本当に目を輝かせていたことを思い出す。神戸市の中央体育館でフェンシングの大会があったが、最初は反応があまり良くなかったが、初めて観戦すると大変興味を持っていた。その後、オリンピックで身近に感じられるスポーツになってきたが、子どもたちが本物の競技を観ることの大切さを実感している。競技者としてその場に立つこともあるし、みるスポーツとして観戦しに行くということもあるが、子どもたちが新たな世界と接する場としていただきたい。

(委員)

- ・初回から利用者目線、市民目線、サラリーマン、家族利用という視点で意見してきたがプールの可動床やトレーニング室などを記載していただき、使い勝手が良い施設になるのではないかと思う。今回整備費が記載されているが、最初の費用だけでなく、ランニングコスト、利用料も施設を使う側からすると大切なところである。以前意見したとおり、神戸市の他の施設ともうまく連携して、使えば使うほど割安になるなど、民間のアイデアをもって検討していただければと思う。

(委員)

- ・広い視点であるが、今回は敷地が限られており、敷地内でできることは限られる。エントランス機能や、そこまでのアプローチなど、公共空間と一体的に計画を連携させるような仕組みが欲しい。PFIを導入するということで、官民連携がとりやすい仕組みにはなっている。プールの周りの公共空間の利用の仕方を含めた提案を求め、施設と一緒に周辺環境を整備していけるよう、PFI手法をもう少し拡張して考えていただきたい。

(事務局)

- ・ポートアイランドには色々な素晴らしい施設があるが、ポートアイランドスポーツセンターはスポーツの核となる施設にしたい。例えば、国際展示場もあり、街ぐるみでイベントを盛り上げるようなことはしていきたい。
- ・先ほど、スケートの方で意見があったが、敷地のスペースとして必要なところについて、水泳の練習や大会ではどの程度必要かご意見をいただけないか。

(委員)

- ・国体レベルになると、仮設でそのような場所を用意しているケースが多い。観客席の規模が3,000席もない会場が多く、そうになると、待機スペースや選手が滞留するスペ

ースがないので外側にそういうスペースをつくる。大会の規模によるので、計画をする中でシミュレーションをしていくのが良いのではないか。

(会長)

- ・今回のポイントは①基本方針、②施設のスペック、③整備手法であったかと思う。最終的に、P F I手法を導入するとされたことは妥当ではないかと思う。今後この施設にどういうものが必要かということも、事務局で詰めていただければと思う。